

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報 (Y2) 昭 57-27517

⑤ Int.Cl.⁹

A 63 H 17/26

識別記号

庁内整理番号

6548-2 C

②④ 公告 昭和 57 年 (1982) 6 月 15 日

(全 2 頁)

2

⑭ 無線操縦車の車輪緩衝装置

② 実 願 昭 53-82619

② 出 願 昭 53 (1978) 6 月 16 日

⑥ 公 開 昭 55-654

④ 昭 55 (1980) 1 月 5 日

⑦ 考 案 者 尾内 修

所沢市大字南永井 519 番地

⑦ 出 願 人 株式会社クラウンモデル

東京都台東区寿 3 丁目 17 番 10 号

⑦ 代 理 人 弁理士 井沢 洵

⑮ 実用新案登録請求の範囲

車体 1 に枢支した車輪支承腕 2 にピン 3 により
接続する細長管 4 と、前記車体 1 に支持金具 5 で
枢着した螺杆 6 とを備え、螺杆 6 の頭部 7 は弾性
環 8 を介してめねじ部材 9 を螺合して前記細長管
4 内に挿入すると共に、螺杆 6 に更に螺合した受
止ナット 10 と細長管 4 の外周つば 11 との間に
コイルばね 12 を介装し、又前記めねじ部材 9 に
は任意の操作杆 a が入り、細長管 4 より露出する
回動操作穴 13 を複数開設した無線操縦車の車輪
緩衝装置。

考案の詳細な説明

本考案は無線操縦車の車輪緩衝装置に関するも
のである。

本考案の目的は緩衝程度を外部から調節できる
車輪緩衝装置を提供することにある。

前記の目的を充足するため本考案は車体 1 に枢
支した車輪支承腕 2 にピン 3 により接続する細長
管 4 と、前記車体 1 に支持金具 5 で枢着した螺杆
6 とを備え、螺杆 6 の頭部 7 は弾性環 8 を介して
めねじ部材 9 を螺合して前記細長管 4 内に挿入す

ると共に、螺杆 6 に更に螺合した受止ナット 10
と細長管 4 の外周つば 11 との間にコイルばね
12 を介装し、又前記めねじ部材 9 には任意の操
作杆 a が入り、細長管 4 より露出する回動操作穴
13 を複数開設したものである。尚図示の実施例
においては、めねじ部材 9 は長身ナットを用い、
弾性環 8 は O リングを使用したものである。又弾
性環 8 は第 4 図に示すように欠除部 14 を形成し
て空気が流通するようにしてあるが、この欠除部
の代りに細長管の一部に空気抜小孔を施しても良
い。15 は座金、16 は車輪、17 は車軸、18
は車輪支承腕 2 の受金具を示す。

本考案は上記の構成であるから、コイルばね
12 により車輪 16 は緩衝される。そして操作杆
a をナット 9 の回動操作穴 13 に入れて回わすと
ナット 9 は動き、弾性環 8 は圧迫されたり、緩め
られたりする。かくして圧迫時には抵抗が増し緩
衝力は強くなり、緩めれば抵抗が減少するので、
緩衝力は弱まる。即ち緩衝程度の調整が外部から
簡単に行われこの種走行車の使用上の性能は向上
する。

図面の簡単な説明

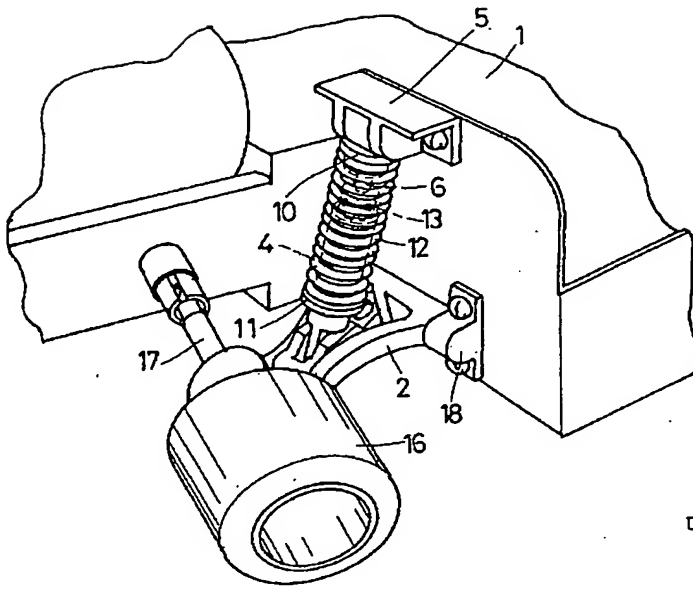
図面は本考案に係る無線操縦車の車輪緩衝装置
の一実施例を示したもので、第 1 図は斜視図、第
2 図は縦断側面図、第 3 図は同上一部の拡大図、
第 4 図は本考案の装置に用いる弾性環の平面図、
第 5 図は車体 1 に取付けた状態を示す側面図である。

1 … 車体、2 … 車輪支承腕、3 … ピン、4 … 細
長管、5 … 支持金具、6 … 螺杆、7 … 頭部、8 …
弾性環、9 … めねじ部材、10 … 受止ナット、
11 … 外周つば、12 … コイルばね、13 … 回動
操作穴。

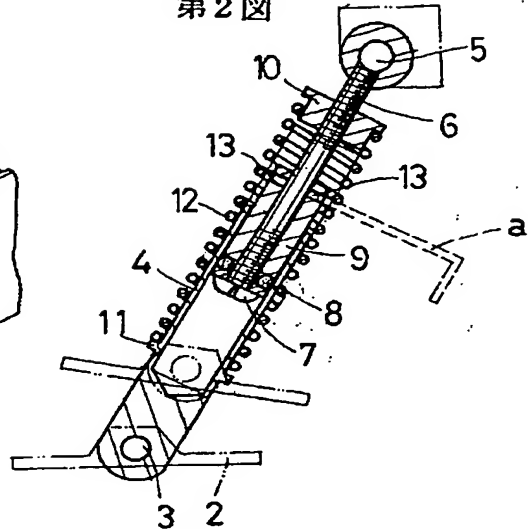
(2)

実公 昭57-27517

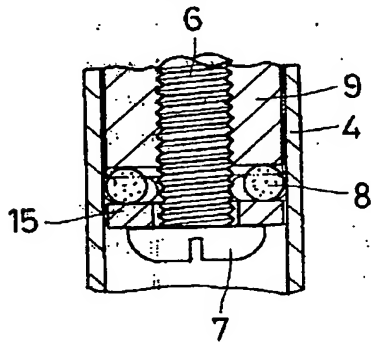
第1図



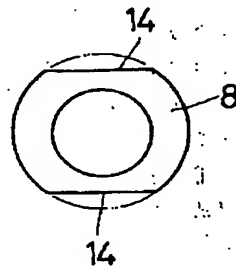
第2図



第3図



第4図



第5図

